



祝

第50回 卒業証書授与式



3月14日(金)、暖かな春の日差しの中、令和6年度大淀中学校第50回卒業証書授与式を挙行いたしました。

淀連合自治会 西庄会長様、淀南連合自治会 野地会長様をはじめ多くのご来賓の方々に参列いただき、厳かで温かな雰囲気の中での式となりました。皆様には、3年生代表生徒による答辞をご紹介して、卒業証書授与式の報告とさせていただきます。

♪♪答辞(一部を割愛しています)♪♪

ふと自らの歩みを振り返ってみると、まるで新たな日々を予感させるような春風が吹くこのよき日に、僕たち50期生97名はこの大淀中学校を卒業します。「一期一会」という言葉があるように、人と人との出会いは24億分の1の奇跡です。そんな、奇跡的な出会いを果たした僕たちがたくさんの方々に見守られながら卒業式が執り行われることをとても嬉しく思います。

3年前の入学式の日、まだ大きい制服に身を包み、新しい仲間と歩み出す希望と少しばかりの不安を胸に抱き、この大淀中学校に入学しました。たしか、あの日も今日のような優しい風が吹いていたと思います。まだコロナ禍だったこともあり、今では当たり前に見ることが出来る友達の笑顔はすべてマスクに隠され、友達のはずなのにどこか距離を感じることもありました。徐々にコロナが落ち着き始めると、今まで静かだった昼休みはにぎやかになり、部活動も再開されて先輩や後輩との関わりが自然と増えていきました。また、マスクも外せるようになったことで、みんなの表情もよく見えて、ようやく本当の意味での友達になれた気がしました。

そんな中、スタートした僕たちの学年目標は「心の痛みがわかる人」「良いとこも悪いとこも認められる人に」「一步踏み出す勇気を持てる人に」の3本柱です。特に「心の痛みが分かる人になろう」という言葉は、学年主任の堀内先生から3年間で一番多く言われてきました。ですが、当時の僕は正直、その理由をわかっていませんでした。この3年間で仲間と共に生活をしていく中で、様々な取組みを通して少しずつその意味を分かってきたような気がし

ます。

この3年間で一番僕の心に残っていることは、生徒会活動です。コミュニケーションをとることの難しさを感じた分、みんなで一生懸命作り上げたものが成功した時の感動は大きくなるということ、何よりも人を頼ることの大切さを、たくさんのこと経験したからこそ知ることができました。人前で何かをする機会が多く、上手くいかないこともたくさんありました。今思うと、僕の性格上つい強くものを言ってしまうようなことが多くあったと思います。それでもどんな時でも見放さず、生徒会のメンバーは僕のすべてを受け止めてくれました。

それはこの学年のみんなも同じです。僕たち3年生はみんな個性が強く、時にぶつかることも多々ありました。例えば、体育大会の学年種目「大淀キングダム」の練習では、「早くゴールするにはスピードを上げればいいだろう」という意見の人や「みんなの歩幅を合わせるためにゆっくり行かないと」という意見の人がありました。どちらも「勝ちたい」という想いは一緒です。その想いが強すぎるがゆえに、お互いがぶつかりあっていましたのだと思います。それでも練習を重ねるたびに、決して否定することなく相手の意見を受け止め、どうすればいいのかをみんなで話し合い本番に臨みました。こうして改めて振り返ってみると、やっぱり3年生のみんなはあたたかさで溢れていました。他にも、一人で抱え込み思い詰めてしまう友達に寄り添う人や、学年やクラスは関係なしにいつでもどこでも誰でも困っている人がいたら、自らかけ寄り助けている人も多くいました。

そんな経験から、後輩のみんなに伝えたいことは、「人間は一人だけで生きていくことはできない」ということです。助けて欲しい時は、素直に「助けて」と言いましょう。必ず助けてくれる仲間が隣にいます。そして逆に、誰かが助けを求めていたら、手を差し伸べられる人になってください。相手の心の痛みに気付き、お互いに補い合い支え合って、一步を踏み出し声をかけ「自分たちの力」で幸せになっていく。まさに、3年間僕たちがこの学年で学んできしたことだと思います。これを1・2年生のみんなにはぜひ目指していって欲しいです。これが達成できて、初めて生徒会目標の「全員が友達」を達成できると思います。

最初にも言いましたが、僕たちが出会えたのは24億分

の！というすごい確率です。中には転校してしまった友達もいますが、その度に彼らの存在の大きさに気付かされると同時に、僕たちが一緒にいられることは当たり前ではないということにも気付かされました。だからこそ、僕たちがこの瞬間を共に過ごせていることは想像もできないほどの奇跡だと、今身に染みて感じています。

思い返せば、この3年間は長いようで一瞬でした。でも、決して薄っぺらいものではありません。むしろ濃すぎるくらいです。例えば、1年生の頃は学年集会が何度も行われ、少しでも喋ったら最初からやり直しました。避難訓練や体育大会の移動は、常に全力ダッシュ。全力ダッシュといえば、大阪へ校外学習に行ったときには、ゴール地点に「集合時間を守らないと！」と最後の班が猛ダッシュで帰ってきて、全員の歓声があがったこともありますね。体育館を取り壊すときには、みんなでお昼ごはんを食べたり、床や壁の中に落書きをしたりしたのはいい思い出です。そして何といっても僕たちの学年は何かと新しい取り組みをすることが多く、修学旅行の行き先を自分たちでプレゼントして決めたり、チャレンジ体験の行き先を直接で決めたりもしました。

一つ一つ振り返ると長くかかってしまって、何より離れたくなくなってしまうので、ここでいったん止めておきます。でも確実に言えることは、この3年間は僕たちにしか作れないかけがえのない3年間だったということです。こんな学年が作れたのは、みんながいてくれたからだと僕は思っています。みんな、本当にありがとうございます。

そして、僕たちの3年間を語る上で欠かせないのは、この学年のみんなに負けないくらい個性が強い先生方の存在です。僕たちを喜ばせるためにギターを片手に自作の歌を歌ってくれる先生がいるでしょうか。校外学習で職務質問を受けるぐらい服装を決めて生徒と同じくらい本気になって行事に取り組んでくれる先生がいるでしょうか。生徒を想ってどんな時も厳しく、熱心に部活の指導をしてくれる先生がいるでしょうか。合唱練習で「今までの中でも最低の合唱」と言いながらも、最後まで熱く教えてくれて、「今まで最高の合唱」に仕上げてくれた先生がいるでしょうか。卒業式まで、まだ時間があるのにフライングして、最後の授業で号泣する先生がいるでしょうか。行事のたびにいくつも機材を準備して、DJとなり帽子とヘッドホンまでつけて盛り上げてくれる先生がいるでしょうか。入試の日に僕たちが無事に高校にたどり着けるように6時台から淀駅で待っていてくれている先生がいるでしょうか。「あんたのために言ってんねん！」と、本当の親のように僕たちのことを想って怒ってくれる先生がいるでしょうか。その他にも僕たちを支えてくださった先生方がたくさんいます。本当にそれぞれ違う個性的な先生ばかりです。しかし、全員に共通しているのはいつも僕たちのことを一番に考えててくれていたということです。

一概には言えませんが、なかなかここまで生徒と先生の距離が近い学校は他にはないと思います。そんな愛情一杯の先生方のおかげで、どんな人でも受け入れができるような、みんなと離れてくないと思えるような、仲の良い学年ができたのだと思います。その絆は目で見ることができません。しかし、卒業を前にして、ここにいる全員が固く強い絆でしっかりとつながっているということを、自然と涙が出るほど感じているはずです。

僕たち3年生のことを一言で表すとすれば、それは「ひまわり」です。「ひまわり」は太陽の方向を向き続ける花であり、常に光と希望を見続け、前に進んできた僕たちそのもののように思います。これから僕たちが大人になっていく中で、さらなる困難が待っているでしょう。時に希望を失いそうになることがあると思います。でも、僕たちはずっと今まま、子どもの心を持って、希望を持って生きていきたいです。

この先、今ここに咲いている97輪のひまわりは、どんな光や希望を見て前に進んでいくのでしょうか。そして、その途中でどんな「奇跡の出会い」が待っているのでしょうか。

(中略)

そして最後に15年間いつも一番近くで見守ってくれたお父さん、お母さん、家族のみんな。いっぱい迷惑や心配をかけてきたけど、嬉しい時は一緒に喜んでくれて、悲しい時もそばにいてくれてありがとうございます。まだまだお世話になりますが、これからもよろしくお願ひします。

京都市立大淀中学校の今後の発展を心よりお祈りしこれを答辞とさせていただきます。

これから僕たち50期が進む道の先に、たくさんの希望と陽の光あれ。そして、幸せが待っていると信じて。いつまでも夢を追い続けて、未来に向かって咲き誇る大輪の花であり続けよう。

令和7年3月14日 卒業生代表

優良PTA文部科学大臣表彰



本校のPTA活動が、文部科学大臣賞を受賞しました。この賞は、全国のPTA活動の中から選出される賞であり、京都市の中学校からは大淀中学校1校のみが選出されました。受賞、誠におめでとうございます。平素は、本校の教育活動に御理解、御協力を賜り誠にありがとうございます。

退職・離任教職員の発表について

発表は、3月24日(月)午後に学校ホームページにて発表します。また、離任式は3月28日(金)10:30から行います。(生徒登校時間は10:15です)